

建築・都市空間と余暇活動の相関に関する研究（その22）

日大生産工 ○北野 幸樹 日大生産工 川岸 梅和
日大生産工(院) 小沼 俊介

1. 研究の目的

本研究は、既報¹⁾「建築・都市空間と余暇活動の相関に関する研究（その1～21）」に引き続く一連の研究である。

前報では、居住者が行う余暇活動を時間的・空間的側面から捉えると共に、生活・コミュニティ活動を定住意識の有無の視座から検討することにより、余暇活動及びコミュニティ活動の評価の実態を明らかにした。

本報では、居住者が行う余暇活動並びに、生活・コミュニティ活動について、家族構成の視座から検討することにより、近隣空間における余暇活動及び生活・コミュニティ活動と余暇空間の関係性について明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

調査対象地域、調査方法は前報と同様である。

3. 調査結果

3. 1 家族構成（表1・図1）

家族構成に関しては、2～4 人家族の割合が高く、約 9 割の居住者が 2～4 人家族と答えている。また、1～2 人家族と 3 人家族以上を比較してみると、世帯主・配偶者共に 3 人家族以上で居住している割合が高く、各々55.8%・78.6%となっており、全体でも 61.9%となっている。一方、1～2 人家族の割合は 38.1%であり、多様な家族構成の世帯が居住していると言えよう。

3. 2 家族構成からみた生活・コミュニティ活動について

1) 日頃行う余暇活動のタイプについて（図2）

世帯主において、1～2 人家族では、日頃の余暇活動はインドアが多いと答えた居住者が 64.0%となっている。3 人家族以上の世帯主においては、アウトドアと答えた居住者の割合が 68.4%と高くなっており、配偶者以外の家族がいる家庭の世帯主では、外出して余暇時間を過ごす居住者が多いことが窺える。一方、配偶者においては、1～2 人家族・3 人家族以上のどちらにおいても、インドアと答えた居住者の割合が高く、各々71.4%・65.6%となっている。

2) 仕事後の余暇活動について（図3）（複数回答可）

仕事後の余暇活動として、1～2 家族・3 人家族以上の

表1 家族構成

家族構成	世帯主		配偶者		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1人	9.3%	0.0%	5.2%			
2人	34.9%	30.4%	32.9%			
3人	22.1%	24.6%	23.2%			
4人	32.6%	40.6%	36.1%			
5人	1.2%	4.3%	2.6%			
合計	100.0%	100.0%	100.0%			

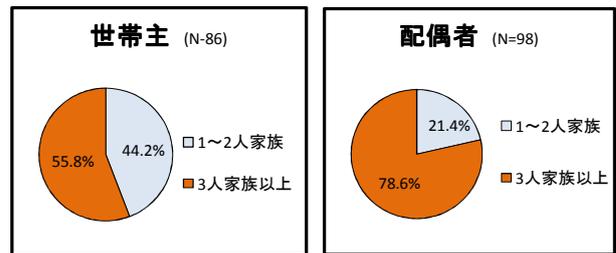


図1 家族構成の内訳

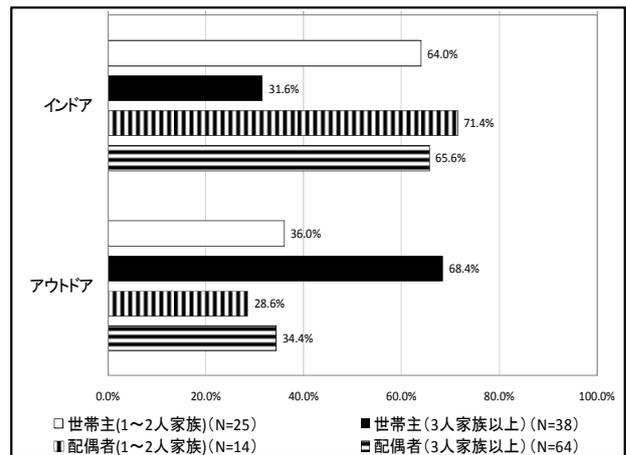


図2 日頃行う余暇活動のタイプについて

世帯主及び3 人家族以上の配偶者において、「家で過ごす」が各々75.0%・69.8%・76.0%と最も高い割合となっている。また、全ての居住者を概観してみても、「家で過ごす」と「幕張新都心の店舗に行く」が高い割合となっている。一方で、「勤務地周辺で過ごす」と答えた居住者の割合は、3 人家族以上の世帯主では 18.6%であるが、それ以外の居住者では低くなっている。これらのことから、仕事後の余暇活動を行う場所は、日常生活に密接に関係する「個室空間」、「家・庭空間」、「近隣空間」が主要な余暇空間として利用されていると言えよう。

3) 生活・コミュニティ活動の良い点・悪い点

(図4、5) (複数回答可)

生活・コミュニティ活動の良い点として、全ての居住者(世帯主・配偶者)において、「居住者の相互理解が深まる。新しい人間関係が育つ」の割合が最も高くなっている。1～2人家族・3人家族以上の世帯主及び1～2人家族の配偶者では、「自分の住戸だけではなく、住宅全体で連帯感が持てる」の割合が次いで高く、各々60.6%・46.5%・33.3%となっている。また、「子供を育てたり、教育的・文化的環境として望ましい」と答えた居住者を見ると、3人家族以上の世帯主・配偶者の割合が高くなっている。このことから、子供のいる世帯においては、コミュニティ活動が子育てのための良好な環境づくりに寄与していると認識されていると言える。

生活・コミュニティ活動の悪い点として、全ての居住者において、「個人の役割負担が多い」の割合が最も高くなっている。特に3人家族以上の世帯主においては、7割以上を占めている。1人～2人家族・3人家族以上の世帯主及び3人家族以上の配偶者においては、「対人関係に神経を使いすぎる」との割合が次いで高く、各々26.1%・15.6%・20.0%となっている。このことから、住棟や中庭等の共用空間の管理・運営体制と役割分担について、少なからず不満を持っている居住者が多いと考えられ、居住者間の相互理解と協同・協働活動への参加の方策づくりが求められると言える。

4) 幕張ベイタウンでの行事について (図6、7)

幕張ベイタウンでの行事について、1～2人家族の世帯主及び3人家族以上の配偶者において、「積極的に参加している」の割合が最も高く、33.3%・27.0%となっている。また、3人家族以上の世帯主においては、「できるだけ参加している」の割合が最も高く、42.9%となっている。しかし、1～2人家族の配偶者においては、「関心が無いので、参加していない」の割合が最も高くなっている。行事への評価については、全ての居住者において、「非常に有意義だと思う」の割合が最も高くなっているが、一方で1～2人家族の配偶者においては、「少々問題を感じるが、有意義だと思う」も最も高い割合となっており、参加状況の「関心が無いので、参加していない」(30.0%)の割合が高いことと関連があるものと考えられる。

5) 現在住まわれている住棟での行事について (図8、9)

現在住まわれている住棟での行事において、1～2人家族の世帯主では、「積極的に参加している」の割合が31.0%と最も高くなっている。3人家族以上の世帯主・配偶者では、「できるだけ参加」の割合が最も高く、各々30.2%・32.8%となっている。また、全ての居住者を概観してみると、参加層の割合の方が高く、6割を超えている。しかし、

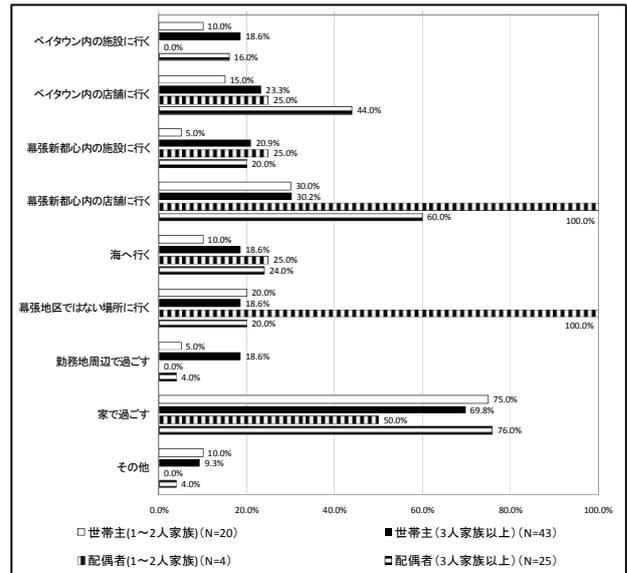


図3 仕事後の余暇活動について (複数回答可)

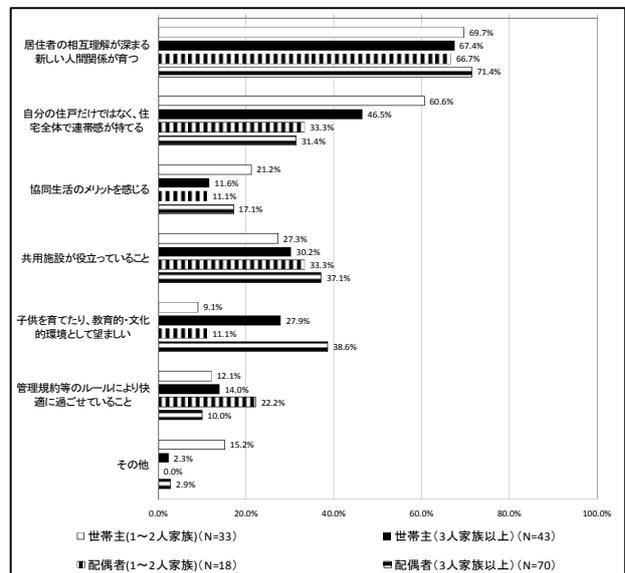


図4 コミュニティ活動の良い点 (複数回答可)

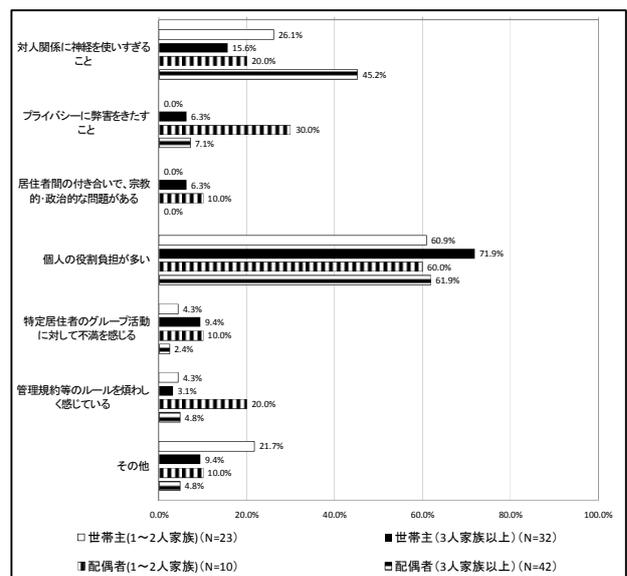


図5 コミュニティ活動の悪い点 (複数回答可)

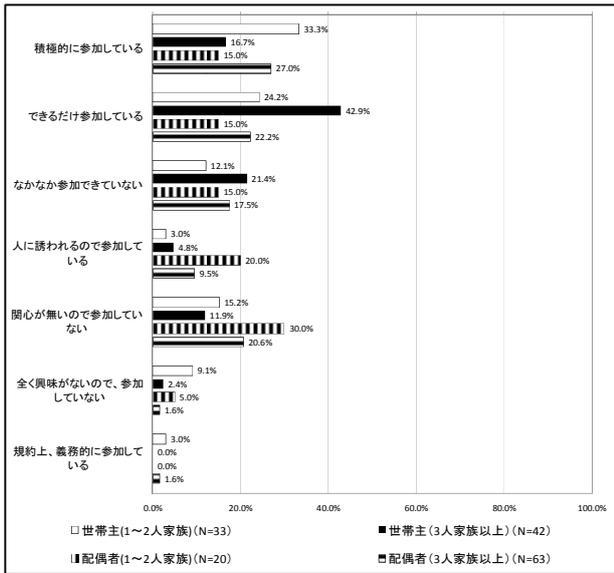


図6 幕張ベイタウンでの行事への参加状況

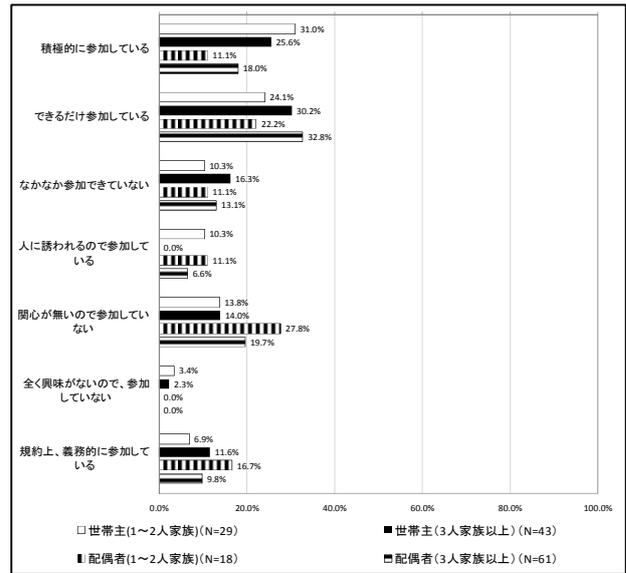


図8 住まわれている住棟での行事への参加状況

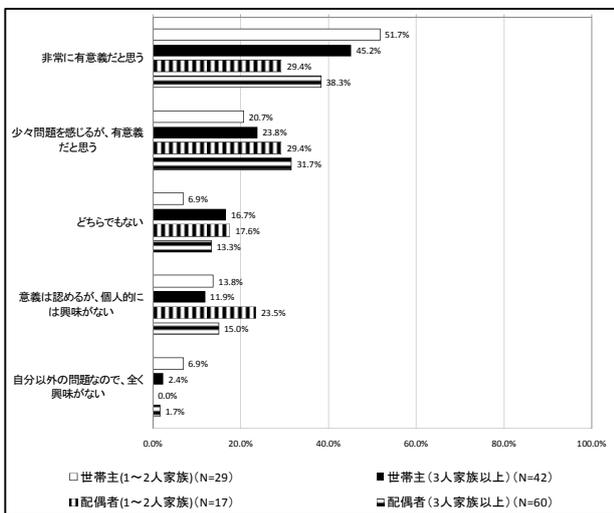


図7 幕張ベイタウンでの行事について

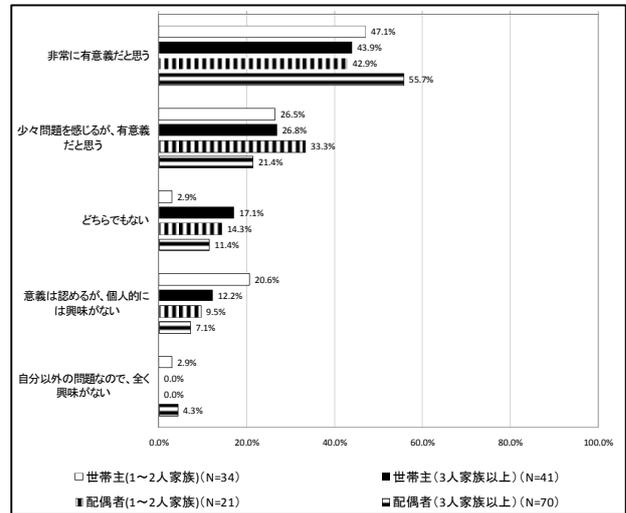


図9 住まわれている住棟での行事について

1~2 人家族の配偶者においては、「関心が無いので参加していない」の割合が27.8%と最も高くなっている。現在住まわれている住棟での行事への評価は、全ての居住者において、「非常に有意義だと思う」が最も高い割合となっており、次いで「少々問題を感じるが、有意義だと思う」の割合が高くなっている。

6) 海（幕張の浜・検見川の浜・いなげの浜）について
(図10、11) (複数回答可)

海へ行く頻度として、1~2 人家族の世帯主では「月に1~2回」と答えた割合が最も高く、3 人家族以上の世帯主では、「週に1~2回」と答えた割合が最も高くなっている。また、1~2 人家族の配偶者においては、「週に1~2回」と答えた割合が最も高く、3 人家族以上の配偶者においては、「年に1~2回」と答えた割合が最も高くなっている。海を利用する目的としては、全ての居住者において、「散歩コースとして」の割合が最も高くなっており、3 人家族以上の

世帯主では、「休息の場として」、「遊び場として」、「スポーツの場として」利用されていることが分かる。従って、海（海岸・公園）は、日常的な余暇空間として認識されていると言えよう。

7) 海浜幕張駅について (図12、13) (複数回答可)

海浜幕張駅の利用頻度として、1~2 人家族・3 人家族以上の世帯主及び1~2 人家族の配偶者において、「週に3~5回」と答えた割合が最も高く、各々37.1%・71.7%・30.0%となっている。3 人家族以上の配偶者においては、「週に1~2回」と答えた割合が28.2%と最も高くなっている。このことから、パティオスの居住者が頻繁に海浜幕張駅を利用していることが窺える。海浜幕張駅の利用目的としては、3 人家族以上の世帯主においては、「通勤・通学のため」と答えた割合が85.1%と最も高くなっている。また、1~2 人家族の世帯主及び1~2 人家族・3 人家族以上の配偶者においては、「移動手段として」と答えた

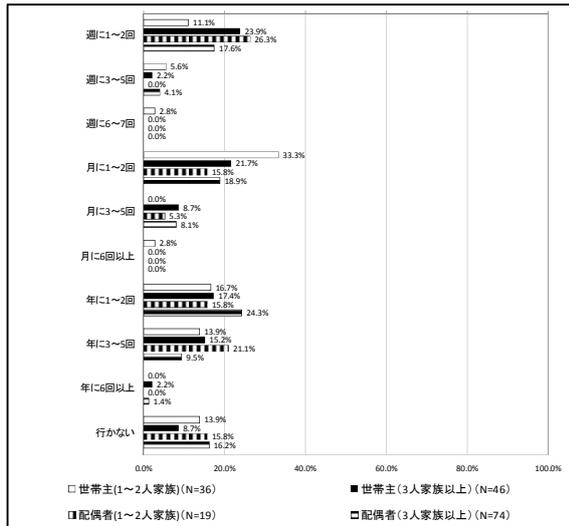


図10 海(幕張の浜・検見川の浜・いなげの浜)へ行く頻度

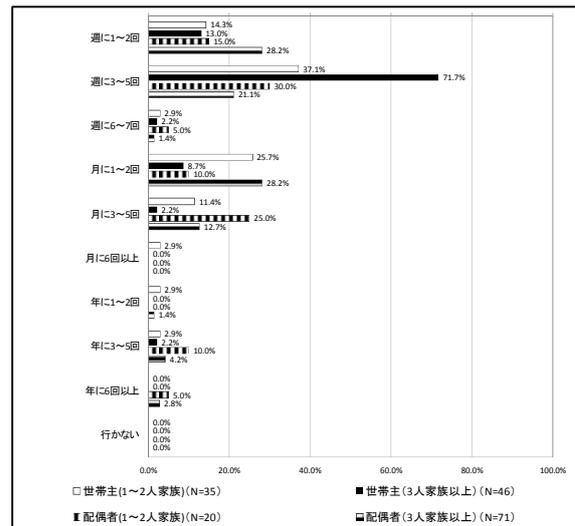


図12 海浜幕張駅の利用頻度

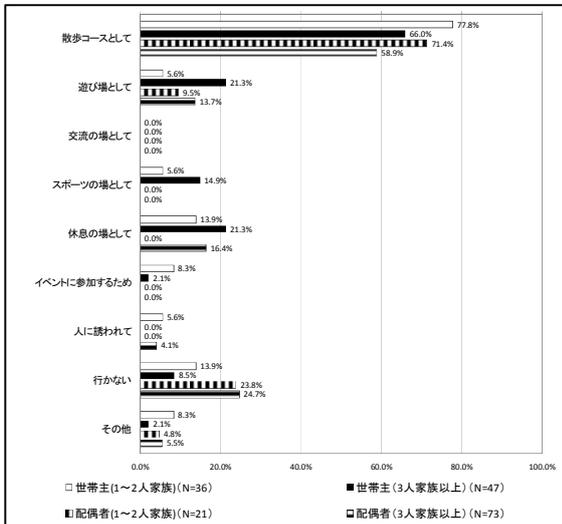


図11 海(幕張の浜・検見川の浜・いなげの浜)の利用目的(複数回答可)

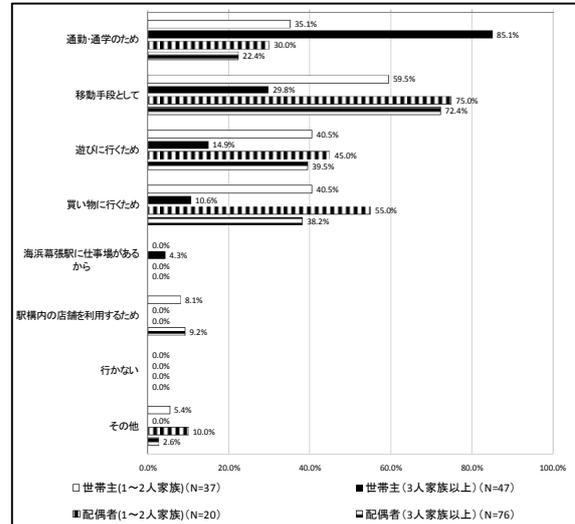


図13 海浜幕張駅の利用目的(複数回答可)

割合が最も高く、各々59.5%・75.0%・72.4%となっている。

4. まとめ

本報では、幕張ベイタウン・パティオス居住者の近隣空間における余暇活動及び生活・コミュニティ活動と余暇空間の关系的側面から検討した。

コミュニティ活動については、居住者間の相互理解と新しい人間関係を育てられ、有意義であると答える人が多く見受けられた。しかし、その一方で共用空間の管理・運営体制等の個人の役割負担に少なからず不満を持つ居住者が多いことが窺える。

日頃行う余暇活動としては、インドアが多いと答える居住者の方が多く見受けられ、仕事後の余暇活動についても、日常生活と密接に関係する居住空間を含む近隣空間が主要な余暇空間として認識されている。

近接する海(海岸・公園)は、散歩コース、遊び場、

休息の場として利用されており、居住者の余暇活動の受け皿として機能しているが、利用頻度は月に数回程度にとどまっている。現在、時間消費型余暇活動が顕在しており、近隣空間における余暇活動に対応し得る環境を維持・創出していくためにも、居住者間のより一層の相互理解と協同・協働活動が求められると同時に地域資源の認識と活用が必要と言えよう。



写真1 幕張の浜(2010年8月)



写真2 海浜幕張駅(2010年8月)

参考文献

幕張ベイタウン誕生10周年記念誌制作委員会: Makuhari Baytown 10years story 幕張ベイタウン誕生10周年記念誌, 2005. 12

本研究に関連する既発表論文
前稿(その21)と同様